

[成果情報名]カンキツ「津之望」の高糖度果実生産のための時期別横径指標

[要約]カンキツ「津之望」の成熟時の果実横径は、摘果を開始する6月末時点の横径から相関が高い。階級2L、糖度13の果実生産のためには、6月末の横径28～29mmが目安値であり、その後40日間隔で肥大を見直し、1月中に収穫を行う。

[キーワード]カンキツ、「津之望」、糖度、摘果

[担当]長崎県農林技術開発センター・果樹・茶研究部門・カンキツ研究室

[連絡先]（代表）0957-55-8740

[区分]果樹

[分類]普及

[作成年度]2016年度

[背景・ねらい]

中晩生カンキツ「津之望」は露地栽培で果皮が滑らかで浮皮はほとんどない良食味品種であり、普及が期待されているが、果実肥大の推移や目標階級が明確でない。

そこで、部門内および西海市の露地栽培果実の調査結果から、果実肥大特性や目標果実の大きさ、および時期別の肥大目安値を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 成熟した果実は扁球形で、横径と重量は正の相関が高く、階級2Lで160～200gに達する（図1）。
2. 2か年間の調査結果から、果実横径が大きくなると糖度が低くなる傾向があり、1月収穫時点で糖度13を確保するためには、2L階級までの果実生産が望ましい（図2）。
3. 6月30日時点の横径と収穫時の横径の相関係数は0.83と高く、以降約40日間隔で相関係数が大きくなる。目標階級2Lの目安値は、6月30日で28～29mm、8月10日で45～48mm、9月20日で59～64mmである（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. カンキツ「津之望」は、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹茶業研究部門で交配（清見×アンコール）育成され、2010年9月に品種登録されている。
2. 部門内で2014～2016年の3か年間、および西海市現地圃場で2016年に、生理落果後（満開日は5月4～5日）から約20日間隔で肥大調査し、12月から1月に部門内果実を収穫し分析した結果である。
3. 階級については、ウンシュウミカン規格で整理している。
4. 樹上に長期間着果するほど糖度は高くなるが、果梗部小亀裂の発生が多くなるため、1月上～中旬の収穫が望ましい。
5. 着花性がよいが着果過多になると隔年結果するため、葉数に応じた着果量を遵守し安定生産をめざす。

[具体的データ]

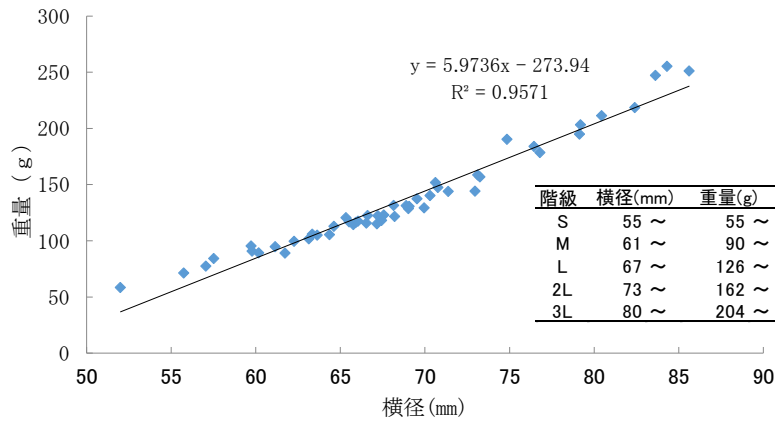


図1 果実横径と重量

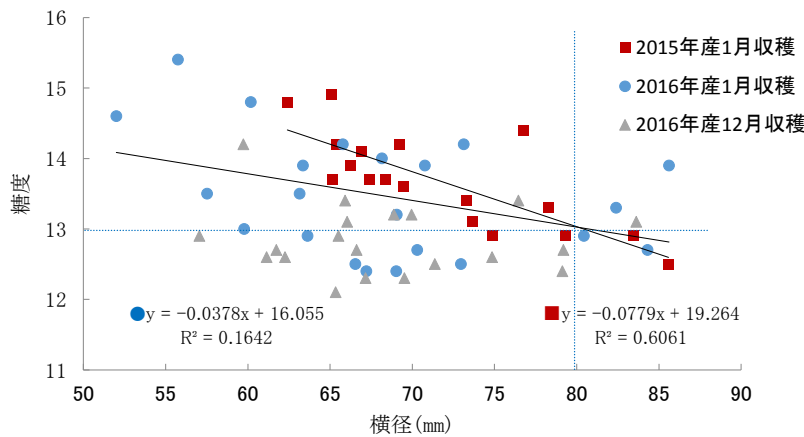


図2 収穫時期別の果実横径と糖度

表1 目標階級別の時期別果実横径目安値

目標階級	6月30日	7月20日	8月10日	8月30日	9月20日	10月10日	10月30日	11月20日
M	23 ~ 24	31 ~ 33	37 ~ 40	45 ~ 48	50 ~ 54	54 ~ 59	58 ~ 63	60 ~ 65
L	25 ~ 27	34 ~ 36	41 ~ 44	49 ~ 52	55 ~ 58	60 ~ 64	64 ~ 68	66 ~ 71
2L	28 ~ 29	37 ~ 39	45 ~ 48	53 ~ 57	59 ~ 64	65 ~ 70	69 ~ 75	72 ~ 78
3L	30 ~	40 ~	49 ~	58 ~	65 ~	71 ~	76 ~	79 ~
相関係数 ^z	0.83	0.81	0.90	0.91	0.94	0.95	0.97	0.97

^z 各時期と収穫時の横径

[その他]

研究課題名：長崎カンキツの食味の優れた完熟栽培技術の開発

革新的技術開発・緊急展開事業（うち戦略プロジェクト）

予算区分：県単、国庫

研究期間：2014～2016年度

研究担当者：山下次郎、園田真一郎、古川忠